

赤い井戸



制作

さくら茶屋にししば（金沢区西柴3-17-6）

あらすじ

金沢七井（しちせい）のひとつ、釜利谷地区にある正法院の赤井戸にまつわるお話です。

今から1200年前、疫病に見舞われ苦しんでいた釜利谷の地にひとりの修行僧が立ち寄りました。

修行僧は井戸を掘らせ、その水を祈祷し赤く変えたのです、その水によって疫病を退散させました。その僧は、後の弘法大師・空海であったということです。

作者紹介

文：富田あさえ（主婦・さくら茶屋スタッフ）

元になる本もあるからと簡単に引き受けた紙芝居作りでしたが、いざ始めてみると……。資料を調べ直したり、文章を手直したりと5, 6回は書き直す羽目になりました。素晴らしい絵のおかげで完成してほっとしています。たくさんの人に楽しんでいただけたら幸いです

絵：三島佑実子（学生）

さくらカフェでお手伝いをしています。日々、練習の毎日を送っています。金沢区に住んで10年以上になりますが、紙芝居制作に参加し、知らないことの多さに驚きました。大変勉強になりました。

絵：前田恵美子（主婦）

西柴に住んで約40年あまり、子育てを終え、今はさくら茶屋の活動を楽しんでいます。若いころを思い出し、とても楽しく作成することができました。わくわくどきどきの制作の時間でした。